

だんだん小屋が生み出す、高齢男性の生きがい

活動地域（鹿児島県南九州市）

男性のプロフィール

氏名：上村 修さん

年齢層：中高年層（40～50 歳代）

活動概要：「男談事業」の仕掛け人、調整役。男談事業の活動主体は「壮年会」に委ねている。

活動開始のきっかけ

地域で孤立する高齢男性が気がかりであったこと

私はNPO法人「福祉相談センターにじ」の代表を務めており、その事務所が自宅の隣にあります。このため、朝晩だけでなく、仕事においても、自治会の風景がよく見えます。そうした中で、見守りや介護が必要な男性や、現役を退いた、まだまだ元気な60歳以上の方々に地域の催しに参加できない男性の存在が気になっていました。地域の中で高齢男性の居場所が少ないことが問題の根本にあると思います、高齢男性が憩える居場所を作りたいと考えるようになったのです。

しかし、何から手をつければよいのかわからず悩んでいたころ、平成23年2月、南九州市が「地域協働推進リーダー養成講座」を開催することを知り、すぐに受講を決意しました。この講座は地域の課題を解決するための勉強会で、私は講師から、「地域の高齢男性の居場所づくり」に取り組むためのノウハウについて指導を受けました。講師との出会いによって、今後どのようにこの問題に向き合っていけばよいかの青写真を描くことができました。

そして、男性が気軽に立ち寄れる小屋を地域内に建てて、そこを活動拠点にしながらい住民同士がつながりを深める活動「男談事業」の事業計画を作り、県の委託事業「平成23年度男女共同参画の地域づくり協働事業」に応募し、採択され、活動を開始したのです。

活動の内容

壮年会の男性たちの手で、高齢男性の居場所「だんだん小屋」を建設

最初に自治会の役員や民生委員などに対し、男談事業への理解を得るための事業説明を行いました。また、「壮年会」（40歳代以上の男性中心の組織）などにも事業への理解と協力を呼びかけました。

自治会や壮年会などの理解を得た後、活動拠点となる小屋づくりを始めました。住民の一人から、「自分の隠居宅を壊そうと思っている。解体を手伝ってくれれば、材料を無償で提供する」という話がたまたまあり、壮年会の男性たちとともに解体作業を手作業で行いました。手作業としたのは、みんなで汗を流すことで活動の初期段階から連帯感や協働意識を育みたかったからです。

解体作業、資材の移動、小屋の組み立て、小屋の案内板の設置までを、壮年会の男性たちが中心になって行い、平成24年1月に小屋が完成しました。その名を、「だんだん小屋」と名付けました。

もちろん、活動の目的は小屋づくりではなく、そこに高齢男性が集うことです。平成23年7月から月1回、定例会を開き、小屋の活かし方や自治会の住民が楽しめる行事などについて、話し合いを重ねています。また、これからは、小屋を活用した高齢男性交流のための活動を本格的に実施していきます。



自分にも、高齢男性にも変化が生まれているのを実感

地域の支えあいの単位は、「自治会」なんだとを感じるようになりました。男談事業を始めて、自治会内の知らない人と顔見知りになれたことは私の財産です。最近は地域を出歩くのが楽しくなってきました。昔は挨拶程度だったのに、今では立ち止まって世間話をしています。

毎月開かれる定例会では、「あの人は今どうだ」、「自治会のここが気になる」といった具合に、地域の話が飛び交います。地域のことを高齢男性の方々が語り合っている様子を見ると、活動を始めて本当に良かったと感じると同時に定期的に語り合う場を設ける必要性も感じています。

周囲との関わり

自治会長や民生委員などの組織の理解が大切

自治会長や民生委員など、地域組織のリーダーの理解を得ながら活動を進めていくことの大切さを実感しています。やはり自分の知り合いだけで活動を行っても、活動は広がらず、効果も限られると思います。地域組織のリーダーなどの賛同を得ることで、住民への活動参加を呼びかけやすくなったり、我々の活動を住民に浸透しやすくするメリットがあると思います。

直面した課題と解決方法

住民の誤解はコミュニケーションにより解決

活動の趣旨が理解されずに、私が、自分が代表を務めるNPO法人の利益のためだけに活動しているのではないかと誤解をされる住民もいらっしゃいました。そのような声を聞いたら、直接その人と話し、活動の趣旨を理解してもらえるように努めてきました。また、同時に、住民に広く活動を理解していただくための手段として、活動の内容を伝える「だんだん通信」を発行し、自治会全世帯に配布しています。

サツマイモにより活動費用の捻出を計画

さらに、平成23年度は県の委託事業に採択されたことで助成金を得ることができましたが、継続的な活動としていくためには活動費用の捻出をどうするかが課題となります。その解決のために考えているのが、近くの休耕地を借りて、サツマイモを作り、販売することで収益を上げようという試みです。現在、畑を3枚借りています。荒れ放題だった畑にサツマイモを植えることは環境整備にもなるので、一石二鳥の取り組みなると考えています。サツマイモだけでなく、「ソバも植えようか」という話も出ており、今後の活動のプランはどんどん膨らみます。

これからの展望

地域の「名人探し」を通じて、60～80代の高齢男性を呼び込みたい

男談事業を始めてから1年弱ですが、「だんだん小屋」に集まるのは、今は60代が中心です。70代や80代で元気な方々や、活動当初から気にかけていた見守りが必要な方々が「だんだん小屋」に立ち寄れないか思案中です。そのために着目しているのが、地域の名人を発掘すること。活動を進める中で、地域には様々な名人がいることがわかってきました。魚釣りが得意な人、料理名人、そば打ち名人、大工の得意な人など。こうした地域の名人を活かそうと、2月に子どもたちとの交流会を行い、そば打ち体験などを行いました。親よりも年代の高い男性と交流することを通じて、子どもたちが「地域にすごい名人がいる」、「地域に安心できる男の大人がいる」と感じてもらえるような地域にしていきたいです。

今後も、70代、80代を含めた地域の名人の方々を発掘し、「だんだん小屋」へと誘導して、子どもたちと交流したり、高齢男性が活躍できる場面を作っていきたいと思っています。